

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	令和元年度第一回教育課程編成委員会 バイオ・環境系分科会																							
開 催 日 時	令和元年 7 月 19 日 (金) 15 時 30 分～17 時 10 分																							
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 1004 教室																							
参 加 者	外部委員：5 名		内部委員：5 名																					
	<外部委員：5 名> (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照) 池上 正人 (NPO 法人日本バイオ技術教育学会元理事長／東北大学名誉教授) 市川 和人 (トコスエンタープライズ株式会社) 早乙女 俊行 (ペントロンジャパン株式会社 取締役 品質管理本部本部長) 佐々義子 (NPO 法人くらしとバイオプラザ 21 常務理事／神奈川工科大学客員教授) 水谷 圭亮 (水 ing AM株式会社 首都圏支店 首都圏 R S C 部) <内部委員：5 名> 大江宏明 (学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科科长 議長) 今野祐二 (学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科科长) 井上綾子 (学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科主任) 大藤道衛 (学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科) 松井奈美子 (学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科主任、書記)																							
	会 議 録	<バイオ・環境系分科会>15 時 30 分～17 時 10 分 1. 議長挨拶 (大江) 2. 前回議事録確認、意見 ・前回議事録 3.1.1 1) 基礎知識について - 他学科においてもディプロマポリシーに基礎知識という表記をした方が良いと思うが、学内で統一表記をすることになっているか。 ⇒現在のところ他学科のディプロマポリシーにおいて「基礎知識」といった記載表記の統一は行っていないが、今後も学内で統一すべきと働きかけを行っていく。 ・入学案内の印刷の色 (黄色の上にオレンジ) が見にくいため改善すべきである。また色覚多様性を考慮しカラーユニバーサルデザイン (CUD) を採用する必要がある。 ⇒今後広報・入学相談室などに配慮するよう働きかける。 3. 議題確認 1) 議題 1 - シラバス詳細表記の変更について 2 - 学費無償化に向けた対応 3 - バイオ科カリキュラム構成の一部変更 (履修表) 4 - 教育活動報告 4.1 リアルジョブプロジェクト (RJP) の取り組み状況と課題 4.2 外部へのアナウンス活動 - 市民講座、TTC バイオ - カフェ、Eco - Café、他 2) 配布資料 <table><tr><td>・ バイオ・環境系分科会</td><td>パワーポイント資料</td><td>1 部</td></tr><tr><td>・ 環境テクノロジー科</td><td>履修科目表、卒業・進級要件、履修判定試験および評価方法、シラバス</td><td>1 式</td></tr><tr><td>・ バイオテクノロジー科</td><td>履修科目表、卒業・進級要件、履修判定試験および評価方法、シラバス</td><td>1 式</td></tr><tr><td>・ 環境テクノロジー科</td><td>入学案内</td><td>1 部</td></tr><tr><td>・ バイオテクノロジー科</td><td>入学案内</td><td>1 部</td></tr><tr><td>・ バイオテクノロジー科</td><td>カリキュラム改定前・改定後履修表</td><td>1 部</td></tr><tr><td>・ バイオテクノロジー科</td><td>カリキュラムフローチャート案</td><td>1 部</td></tr></table> 4. 意見交換 1 - シラバス詳細表記の変更について 特に指摘なし。			・ バイオ・環境系分科会	パワーポイント資料	1 部	・ 環境テクノロジー科	履修科目表、卒業・進級要件、履修判定試験および評価方法、シラバス	1 式	・ バイオテクノロジー科	履修科目表、卒業・進級要件、履修判定試験および評価方法、シラバス	1 式	・ 環境テクノロジー科	入学案内	1 部	・ バイオテクノロジー科	入学案内	1 部	・ バイオテクノロジー科	カリキュラム改定前・改定後履修表	1 部	・ バイオテクノロジー科	カリキュラムフローチャート案
・ バイオ・環境系分科会	パワーポイント資料	1 部																						
・ 環境テクノロジー科	履修科目表、卒業・進級要件、履修判定試験および評価方法、シラバス	1 式																						
・ バイオテクノロジー科	履修科目表、卒業・進級要件、履修判定試験および評価方法、シラバス	1 式																						
・ 環境テクノロジー科	入学案内	1 部																						
・ バイオテクノロジー科	入学案内	1 部																						
・ バイオテクノロジー科	カリキュラム改定前・改定後履修表	1 部																						
・ バイオテクノロジー科	カリキュラムフローチャート案	1 部																						

	2 - 学費無償化に向けた対応 ・実務家教員が教える時間数は、全体の何パーセントなのか。 ⇒パーセントでの指定はない。2年課程の専門学校で必要な総授業時数は1,700時間以上、また無償化に必要な実務家教員が教える総授業時間数は160時間以上となっているため、約9.5%にあたる。また、実務家教員の企業勤務年数などの規制もない。 ・シラバス、コマシラバスといった言葉は一般社会に浸透していない。そのため、これらの言葉を外部に出す（広報ツールに出す）場合は注釈や説明をするべきである。 ⇒注釈するべきと働きかける。 ・シラバス作成者と最終確認者を同一人物にすることは望ましくない。また、確認者の名前の横にカッコ書きで職務を記載するべきでは。 ⇒改正するよう働きかける。職務記載に関しては検討。 3 - バイオ科カリキュラム一部構成の変更について ・事実上15時間授業数が増えるためどのように運営するか検討すべき。 ⇒例えば基礎化学1、基礎化学2といったように、1、2と分けている教科をまとめ、今後運営を考えていく。 ・授業が増えるのであれば、他の授業を減らす必要があるのでは。 ⇒検討する。 ・テキストはどのように準備するのか。 ⇒ほとんどの教科は講師オリジナルテキストを使用しているため差し支えない。 ・教員がインフルエンザになるといった可能性もあるため予備日を作る必要がある。 ⇒予備日を作成できるよう調整、検討。 4 - 教育活動報告 4.1 リアルジョブプロジェクト（RJP）の取組み状況と課題 特に指摘なし。 4.2 外部へのアナウンス活動 市民講座、TTC バイオ - カフェ、Eco - Café、他 ・外部へのアナウンスは学校のHP以外ではどのように行っているか。 ⇒TTC バイオ - カフェでの広告は、TTCのHP、くらしとバイオ21のHP、JST（科学技術振興機構）のHP、JASC（日本サイエンスコミュニケーション協会）のHP、関係者のFacebook、スーパーの掲示板、中野区の掲示板などで告示している。 ・区報、新聞折り込み広告などに掲載し認知度をあげてはどうか。 ⇒他のサイエンスカフェで中野区報に載せたことがあるが、区報に載せる場合早い段階で詳細や日程などを中野区に通知しなければならない。理科実験教室などでは詳細が直前に決まる事が多く、区報の掲載締め切りに間に合わない状態である。また折り込み広告は10年ほど前に行っていたが現在は行っていない。今後広告を載せることを検討したい。 4. 閉式の辞（大江） 17：10 終了 以上
--	--